

【報告】

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用共同研究課題「負債の動態に関する比較民族誌的研究(2)―人間経済における負債の多元性, 相克, 創造性」2023年度第2回研究会(通算第5回目)

日時:

開催日: 2023年11月4日(土) 15:00~17:30

場所:

明治大学駿河台キャンパス研究棟第9会議室、オンライン

プログラム:

15:00~15:05 箕曲在弘(早稲田大学)

司会挨拶

15:05~15:20 佐久間寛(明治大学)

概要紹介

15:20~15:40 真島一郎(東京外国語大学)

コメント1

15:40~16:00 重田園江(明治大学)

コメント2

16:00~16:15

休息

16:15~16:45 佐久間寛、箕曲在弘、小川さやか(立命館大学)、佐川徹(慶應義塾大学)、松村圭一郎(岡山大学)、酒井隆史(大阪公立大学)、田口陽子(叡啓大学)、林愛美(日本学術振興会)

執筆者からのリブライ

16:45~17:30

質疑応答

参加者: 199名

概要:

2023年度第2回研究会を上記の日時およびスケジュールのもと実施し、対面・オンライン合わせて199名が参加した。本研究会は本年6月に刊行された成果論集『負債と信用の人類学―人間経済の現在』(以文社)の合評会として、一般公開形式で行われた。

当日はまず執筆者の佐久間から本書の全体説明、および本合評会の趣旨説明が行われた。次にコメンテーターの真島一郎氏(東京外国語大学)から、本書の各論文とそれらを貫く「アナキズム」というテーマについて、文化人類学的観点からコメントがあった。続いてコメンテーターの

重田園江氏（明治大学）から、グレーバーの「負債」という概念に対する政治経済学的観点からのコメント、およびそれと本論を対比したときに現れる論点の提起が行われた。

休憩を挟んだ後半部では、以上のコメンテーター2名からの問題提起に対し、執筆者・翻訳者からリプライがなされ、さらにフロアとオンラインからの質問も受け付けた。

以上の対話は、いずれも成果論集の本質的な部分を再度新たな角度から問いに付すものであり、成果論集後の本研究会の展開を構想する上できわめて重要であった。

（文責 橋爪）